令和5年度　堅田小学校学校評価書　　（実施時期:：自己評価…令和５年１１月　　学校関係者評価…令和６年２月）

| 項目 | | 評価の観点 | 職員 肯定的評価 | 職員 小項目評定 | 評価 自己（職員） | 評価 学校関係者 | 項目に関する分析・意見・提言 など<br>・職員　◇学校関係者（ＰＴＡ・地域等） | 今後の改善に向けて |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 堅田小スタンダード | 授業づくり | 基本的な学習の流れ（「めあて」「まとめ／ふり返り」等）、「学習の約束」、基礎学習タイム、朝読書タイム、を意識した指導に努めている。 | 97.5% | A | A | A | 【授業づくり】<br>・基本的な学習の流れ（学習のスタンダード）について共通理解し、学校全体として取組を継続することが定着に繋がった。<br>・日々の授業で「めあて」の提示、「まとめと振り返り」を行なっている。<br>・「授業づくり」に関して、とても意識できている。<br>・学校全体で取り組めるよう、呼びかけや掲示物などを使い、意識づけができた。また、それが実践できた。<br>・基本的な学習の習慣がつけられるよう、児童に声をかけたり、確認したりした。<br>・今年度は職員間で「スタンダード」という言葉があまり出てこなかった。<br>・朝の読書タイムの充実を図るために、教師がどのように働きかけているか、見直す必要がある。<br>・基礎学習タイムの使い方について、検討していく必要がある。<br>【生徒指導】<br>・重点目標である３つの約束を月ごとの生活目標に設定し、年間を通して指導することができてよかった。<br>・生活目標について、学級で具体的な取り組みを考え、毎日帰りの会に振り返りを行なうことができた。<br>・３つの約束の振り返りなどを行うことで、児童にしっかりと意識させて活動することができた。<br>・子どもの話をよく聞き、気持ちに寄り添うように努めている。<br>・問題行動・いじめ・不登校・虐待等については、学年教員や関係する教員で連携し、きめ細やかな対応ができている。<br>・放課後に学年の教員が子どもたちの様子を共有し、組織的に対応できるように努めている。<br>・短時間の打ち合わせでは、他学年の状況を把握することが難しい場合もある。情報共有の在り方を改善する必要がある。<br>・おおむね児童はがんばって清掃活動をしている。<br>・廊下歩行に課題が見られる。今後、重点化して取り組んでいく必要がある。<br>◇参観では、落ち着いて学習に向かう姿が見られた。スタンダードが実践されていた。<br>◇あいさつについては、地域の人も元気をもらっていることを、子どもたちに知ってほしい。学校の近くでは大きな声であいさつをする姿が多く見られる。学校から離れたところでもすすんであいさつができるようになるとよい。<br>◇そうじについては、以前と比べて改善されてきたように感じる。子どもたちからもがんばっていると聞いている。ボランティアが子どもたちと一緒に活動することで、様子を見ていきたい。 | 【授業づくり】<br>・基本的な学習の流れの定着は見られたが、全職員が日頃の意識をより変えていくという意識をもつことを心がける。<br>・年度当初に学年ごとにRESEARCHしたことを軸に、年間を通して研究ができている。取り組みを改善し、継続していく。<br>・朝読書タイム・基礎学習タイムによってけじめのある規則正しい学校生活が送れている。今年度基礎学習タイムを５分延ばし、１５分間で実施した。今後は、学習内容を精選し、基礎学力の向上を図っていく。<br>【生徒指導】<br>・３つの約束について、振り返りの時間を大切にすることで定着を図ることができた。約束を覚えるだけでなく、次年度は約束が実践できる児童が増えるように取り組みの改善を図っていく。<br>・清掃活動については、今年度地域のボランティアの協力も得られるようになった。児童が意欲をもって取り組むことができるよう、工夫していく。<br>・児童の生徒指導上の課題対応については、未然防止教育を充実させることができた。課題の改善に繋げることができるよう、取り組みを進めていく。 |
| | 生徒指導 | ３つの約束「あいさつ」「そうじ」「聴く」の指導の徹底、問題行動・いじめ・不登校・虐待等についての迅速な組織対応（学年、担当、関係機関）に努めている。 | 100.0% | A | | | | |
| 学ぶ力の向上と個性を伸ばす教育の推進 | 主体的・対話的で深い学び | 互いに認め合う支持的風土を育てる学級・学年集団づくりに努めている。 | 97.5% | A | B | A | ・コロナ禍が収束に向かったことで、ペアやグループワークがしやすくなった。共に学び合う授業を意識できているように思う。<br>・お互いが認め合えるように日々の授業づくりを工夫している。<br>・基礎学習では、本校の学力向上のためにどのような学習活動がふさわしいか等、ＯＪＴ研修等を通して考えることができた。<br>・「ビー玉貯金」等でお互いの良かったところを振り返り、認め合う時間を取ることができた。<br>・支持的学級集団づくりに努めながら、基礎学力の定着にむけて「書く、話す、聞く、読む、計算」を意識して取り組んでいる。<br>・校内研究では、全職員が同じ目標に向かって頑張ることができている。<br>・校内研究では書くことに焦点化した取り組みができて成果がみえてきた。<br>・「書く力」に特化しながらも、学年や学級で児童の分析を丁寧に行い、学力向上に努めている。<br>・書く活動の前に話し合う場を設けることにより、書く活動を勢いづけると共に、コミュニケーション能力育成にも繋がったり、学び合う姿勢づくりにも繋がったりしている様子が見られ、よい流れであると考える。次年度はさらにこの流れの上に積み上げていきたい。<br>・学習の答え方や考え方を認め合うのはいいが、学習に向き合えない児童にどのように働きかけていくのかが課題である。<br>・コロナ禍があったため、児童の中で話し合い活動の素地が十分に育っていないところがあると思われる。<br>◇学ぶ力だけでなく、様々な経験を通してたくさんの力がいつの間にかつくように工夫されている。<br>◇ペア学習やグループ学習は土壌が大切だと思う。グループ編成の配慮もされていてよかった。取り組みを継続してほしい。<br>◇ICT活用も進んでいるように思う。<br>◇「ビー玉貯金」など、児童のがんばりが目に見える形になっていてよい。 | ・係活動や委員会活動、〇〇実行委員、学年集会等、児童の発達段階に応じた特別活動を充実させることで、学級・学年集団づくりに努めていく。<br>・校内研究とＯＪＴ研修の取り組みが連動していないことが課題となっている。ＯＪＴの研修を活性化させることで、改善を図りたい。<br>・ペア学習やグループワークに目がいくようになった。今年度の成果の上に、学び合う集団づくりができるようにする。 |
| | | 子どものコミュニケーション能力を高め、共に学び合う授業を意識した授業の工夫・改善に努めている。（ICT活用含む） | 85.0% | B | | | | |
| | | 「めあて」「ふり返り」や学び合いを取り入れた授業づくり、ペアやグループ学習、自分の考えを持つ活動などを取り入れた、主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修に取り組んでいる。 | 95.0% | A | | | | |
| | 道徳教育の充実 | 生命の大切にする心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育むよう、「特別な教科　道徳」を中心に、全教育活動で行っている。 | 100.0% | A | B | B | ・日常から道徳的実践力をはぐくめるよう機会を設けている。<br>・毎時間の道徳科の学習で、いろいろな考え方に触れられるようにしている。<br>・その時々の子どもの実態や様子に応じて、道徳科の授業をすることができた。<br>・参観日で保護者にも道徳科の授業を公開できた。<br>・学校全体として、人権週間や参観授業においても意識して取り組むことができた。<br>・授業は積み重ねてできているが、授業・評価に関する研究は不十分であると思われる。<br>・道徳の教具が不十分である。引き継いでいけるよう、教材・教具のセットを作成するとよいと思う。<br>・学年やクラスの特徴により、繰り返し指導が必要な項目もあるように思う。<br>◇ゲストティーチャー（弁護士、携帯電話会社）を招いた授業がよい。<br>◇改善案にあるように、教材、評価に関する研究は今後に向けてより充実したものにしてほしい。 | ・問題行動の未然防止教育という意味においても、今後も道徳教育の充実に努める。<br>・学年で教材セットを作成し、次年度以降も活用できるよう、保管コーナーを設ける。<br>・ICTを活用した教材を考えたり、研修の機会を設けたりする。<br>・授業の板書に在り方について交流する。<br>・道徳参観の前などに、学年で教材、評価に関する研究を行う。 |
| | | 「特別な教科　道徳」の教材、評価に関する研究を行い、資料の整備・交流に努めている。 | 72.5% | C | | | | |
| | | 道徳科の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んでいる。 | 100.0% | A | | | | |
| | 体力づくり | たくましい心と体を育てる魅力ある授業や体育行事の工夫や改善に努めている。 | 97.5% | A | B | B | ・心の健康を保てるように、楽しく学校生活を送れるように努めている。<br>・体力テストの結果から、本校の課題である運動領域に特化したスポーツ大会を開催したり、本校独自の「体育の宿題」動画を毎月作成し、児童の体力向上に努めている。<br>・体育科の授業や体育の宿題、カタリンピック、スポーツフェスティバル等を通して、楽しみながら運動に取り組む姿が見られた。<br>・休み時間などに学級全体で遊びを通した運動の機会を作った。<br>・体育の宿題は動画があるのでわかりやすい。見本動画の教師を招き、学年全体で取り組んだ月もあった。<br>・体育の宿題への取り組みが学級や個人により差がある。<br>・体育の宿題の内容や実施日については、運動能力の向上につながるよう工夫する必要がある。<br>◇１年生時に見た組体操に憧れをもち、６年生時にその組体操ができたという達成感を参観日に発表する児童がいた。このような教育活動が継続できるとよい。<br>◇運動経験が少なくなっている。地域やＰＴＡが協力し、児童が運動に親しむことができる時間や場所がより提供できるようにしていきたい。 | ・今年度も①カタリンピック（各学期に大津市のスポーツランキングに合わせて実施）、②体育の宿題（運動のアプローチや紹介）、③スポーツフェスティバル（団体競技の色別得点）を軸として、取り組むことができた。体力向上と運動習慣の充実のために、次年度以降も継続して取り組んでいく。児童や保護者に取り組みの意義を発信し、理解が得られるようにするとともに、内容について精査していきたい。また、体育委員会から体育の宿題の呼びかけをしたり強化週間など設定したりする。スポーツフェスティバル前の大切にしている運動ポイントなどを伝えられる工夫をする。<br>・課題として、スポーツランキングと体育科の年間指導計画にずれがあったことが挙げられる。学習での積み重ねが少ないものが大会として開催されたため参加人数に偏りがあった。計画に合ったものを実施できるよう工夫する。 |
| | | カタリンピック、学期ごとの「握」「回」「跳」に関わる大会、体育の宿題、学習カードの活用など、運動に親しむ環境づくりや体力づくりを推進する運動実践に努めている。 | 95.0% | A | | | | |
| | | 児童の健康に対する保持・増進の意識や、運動しようとする意欲の育成に努めている。 | 90.0% | B | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 指導改善（組織的・計画的） | 教員間で授業交流や教材研究等に積極的に取り組むなど、学ぶ力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めている。 | 97.5% | A | B | B | ・校内研究ではRPDCAサイクルを用いて、児童の実態を把握し、それをもとに授業計画を立てている。<br>・研究の仕方が全校で統一されており、わかりやすい。今年度は全校で「書くこと」に一生懸命取り組むことができてよいと思う。<br>・年間通して行う校内研究を意識し、各学年で毎月確認することができた。研究推進委員会で毎月フォローも行い、質の高い校内研究を実現できた。<br>・ICTもかなり進んでいるように思う。<br>・本校は大規模校であり、教職員の数も多く年齢層も幅広い。こうした長所を生かし、研究授業は勿論のこと、短時間であっても気軽に教員間で日頃から授業を見せ合う中で指導改善が行われていると感じている。<br>・学期の初めや終わりに５時間授業の日が設定できたのはよかった。<br>・外部講師を呼ぶ機会が増えたり、行事も増えたりして多忙感は高まった。精選は課題だと思う。<br>・働き方改革というよりは、一部の人に負担があるように思う。<br>・働き方改革について校内研究の学年への負担が大きい。もう少しやるべきことを減らしてほしい。<br>・会議や打ち合わせなど回数をもう少し減らすことができるとよい。<br>・定時退勤日を周知して実現できるとよい。<br>・校内研修やOJTなどで指導力を高めるだと感じているが時間の確保が難しい。<br>・カリキュラムや学校行事、学校生活の約束などについて、児童への教育効果と教職員の負担とのバランスを見て考えるべきだと思う。<br>◇校内研究やＯＪＴ研修はより推進してほしい。<br>◇定時退勤日は周知し浸透させるとよい。ＰＴＡ、地域も協力できるとよい。<br>◇学生ボランティアや地域人材がさらに活用できるとよい。地域の人も子どもたちから元気がもらえるだろう。 | ・校内研究が大変よい刺激になっている。学校としての高まりを感じられるので、取り組みを積み重ねていく。<br>・教職員が指導に関して気軽に聞きやすい雰囲気を作ることで、負担感を軽減していく。<br>・OJT研修については、日時を定め、今年度以上に計画的に実施できるようにする。<br>・注力するところとそうでないところの精査を今一度して、教職員の負担を減らすようにする。<br>・教育活動の内容や会議の精選、時期の平均化を図って、児童、教職員の負担が増えないよう、次年度の計画を立てる。<br>・職員の勤務時間や定時退勤日について周知するとともに、職員も勤務時間を意識して職務を遂行していく。 |
| | | 校内研究、職員研修、会議等を通して、学校全体としての教育力、指導力の向上に努めた（ICTの活用含む）。 | 100.0% | A | | | | |
| | | 働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めている。 | 72.5% | C | | | | |
| 育ちと学びを支える連携 | 家庭・地域との連携・協働 | 保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めている。 | 100.0% | A | A | A | ・通信や週予定、ホームページ等を活用して情報発信に努めている。<br>・今後はテトル配信の活用方法についても改善していく。<br>・保護者や地域の協力を得ることで、日々の教育活動、学校行事、特に今年度は創立１５０周年に関わる行事を充実したものにすることができた。<br>・日頃から、地域や関係機関の方と顔の見える関係を築くことができた。<br>・保護者との細かな連絡、定期的な面談等を通して支援に努めている。電話連絡や家庭訪問などしっかりとできていると思われる。<br>・中には連携が十分にできなかった家庭もある。次年度以降を見据えて低学年時から保護者と連携を図っていきたい。<br>・参観日や個別懇談会の回数は精査する必要がある。<br>◇学校、保護者、地域が連携することができている。<br>◇テトル配信の活用については、地域や子どもの意見も踏まえてすすめてほしい。<br>◇保護者だけでなく、祖父母と学校の情報交換ができる機会が増えるとよい。 | ・引き続き、家庭、地域、関係機関との連携を図るとともに、情報発信に努めていく。<br>・情報発信については、テトル配信も活用していくことになるが、紙媒体を希望される家庭には対応していくことを、年度当初に改めて周知する。 |
| | | 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域人材の活用に努めている。 | 97.5% | A | | | | |
| | | 防災教育の推進、防犯や感染症対策の推進を図るため、家庭・地域と連携したり、メール配信やホームページなどを活用して情報発信をしたりするなど、安心・安全な学校づくりに努めている。 | 95.0% | A | | | | |
| | 保幼小中の連携 | 体験入学、部活見学など、校種間の円滑な接続に向け、子どもの校種交流や教員の出前授業などの取組に努めている。 | 92.5% | B | B | B | ・今年は例年より校種間の連携が密にできていると思う。<br>・中学校の先生と話せる機会が多くあったのはよかった。<br>・幼稚園や保育園・中学校への見学や担任間の情報共有がもっとできるといいと思う。<br>・保育園、幼稚園へ出向き、園児の様子を参観する時間をとりたい。<br>・今年度は小中の合同研修で、中学校の職員に小学校の授業を公開した。中学校の授業を参観する機会も設けたい。<br>・「堅教研」の内容や研修の回数等について、検討する必要がある。<br>◇保幼小中の連携がさらに充実したものになるよう進めてほしい。<br>◇学校運営協議会も小中が連携してすすめることができている。 | ・校種間の連絡会については、形骸化しないよう今後も日常的な連携、交流を推進していく。<br>・校種間連携の場として、堅教研の活用を検討していく。<br>・堅教研の研修内容や実施時期、実施回数については、検討する。内容が重なる部分については、精査していく。 |
| | | 校種間の授業公開や、堅田人権教育研究会（堅教研）などの合同研修に努めている。 | 95.0% | A | | | | |
| | | 保幼小連絡会、小中連絡会など、保幼小中の円滑な接続に向け、教育内容、効果的な支援などについての交流に努めている。 | 92.5% | B | | | | |
| 組織体制の充実 | 生徒指導体制の充実 | 日ごろから子どもとの関わりを意識的に高め、子どもが気軽に相談できる雰囲気づくりなど、諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めている。 | 100.0% | A | A | A | ・子どもの実態に応じて生活目標を考え、全校で同じ取り組みを実施するなど、生徒指導体制を整えることができた。<br>・いじめをはじめとする問題行動等について、速やかに職員間で情報共有し対応することができた。未然防止、早期発見、早期対応については各学年でも意識して日々の教育活動に臨むことができた。<br>・今年度は、問題行動の早期発見だけでなく、未然防止にも力を入れることができている。来年度以降もより未然防止を推進していきたい。<br>・組織体制は十分すぎるほど手厚い。職員として対応しやすい。<br>・不登校傾向の子どもに対して、別室（クローバールーム）の利用を推進している。また、別室の学習だけではなく、教室の授業や学年での行事等を後ろから見て参加するなど、支援のあり方を工夫している。<br>・他機関との連携を推進し、効果的な対応や支援のあり方を工夫している。<br>・即効性のある対応は難しいので、日々の丁寧な対応を積み重ねている。<br>・担任外の教職員と担任が役割を分担しながら、保護者とより連携できるようにしたい。<br>・働き方改革として、定例の会議や臨時の会議の回数や内容が精選できるとよい。<br>・廊下歩行等について全教職員が同じ意識で児童らに呼びかける等、より足並みを揃えた指導を行うことができるとよい。<br>・いじめ等の問題行動の対応については、同種の課題の再発防止に向け、指導、支援のあり方や組織体制について日々見直しを図る必要がある。<br>◇夜遅くまで対応している教師の姿を見ている。今後も指導・支援をより充実させてほしい。<br>◇別室の存在がありがたい。担当と担任の連携もできている。今後も継続してほしい。 | ・生徒指導上の諸課題について組織で対応することは、校内体制として整っている。今後は、学校だけでなく、専門家や関係機関との連携をより推進していくこと等を通じて、指導・支援をより充実したものにしていく。<br>・教職員一人ひとりの認識には違いがあるということを意識して平時の情報共有を大切にすることや、指導・支援のあり方や組織体制を日々見直すことで、課題の未然防止や、再発防止に努めていく。<br>・教職員の役割分担を見直すなかで、保護者との連携を推進できるように努める。 |
| | | 問題行動やいじめ、不登校傾向の児童に対して、組織的な支援体制で対応できている。 | 95.0% | A | | | | |
| | | あいさつ運動、休業中の約束（夏休みのくらし等）、いじめ対応など、家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めている。 | 97.5% | A | | | | |
| | 特別支援教育の充実 | 支援を要する児童の個別の指導計画を作成・活用し、支援に努めている。 | 100.0% | A | A | A | ・支援を要する児童には、個別の指導計画を立て、支援に努めている。<br>・毎年度、支援の必要な児童を確認し、個別指導計画作成について保護者に確認している。計画を作成した児童については面談を通して有効的に活用している。<br>・部会を通じて支援の体制を整え、指導計画の作成ができている。<br>・関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携した体制が整っている。<br>・細かく子どもたちのことを情報交流できていることは今後も継続いていけるとよい。<br>・学年や各部会で情報を共有しながら進めることができているが、保護者の思いに寄り添い進めることが難しいケースも多い。<br>・支援を要する児童の数が多く、支援を充実させることが難しい。<br>◇関係機関や専門家（スクールカウンセラー等）との連携を推進し、今後も充実した対応ができるとよい。 | ・指導や支援の計画について検討する機会を工夫し、教職員の力が向上するようにする。<br>・支援の多様性を探るため、一部の教職員が抱え込むことがないようにし、部会などでケース検討を重ねていく。<br>・今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関等との相談体制を類者に周知し、連携がスムーズにいくようにする。 |
| | | 組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努めている。 | 95.0% | A | | | | |
| | | 関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携した相談体制の充実に努めている。 | 95.0% | A | | | | |

評定（達成度）の目安　A(目標を上回る達成)：９５％以上　B（目標を達成または概ね達成）：８０％以上　９５％未満　C（目標を達成せず）：５０％以上　８０％未満　D（目標を大きく達成せず）：５０％未満